

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 2 日現在

機関番号：15201

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K13140

研究課題名(和文) ICTを活用した保育場面での危機予測・回避能力育成のためのKYT教材の開発

研究課題名(英文) Develop KYT educational materials using ICT to develop risk-prediction and risk-avoidance ability in childcare situations

研究代表者

伊藤 優 (Ito, Yu)

島根大学・学術研究院教育学系・講師

研究者番号：80781054

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：危険認知(ハザードとリスク)、安全教育、危険予測・回避、KYTなどに関する国内外の文献、資料を収集し、ヒヤリハットに関する課題や今後の対策について検討した。全国の幼稚園教員、保育士を対象とし質問紙調査を実施し、幼稚園や保育所におけるヒヤリハット状況を明示したとともに、保育者養成校の学生を対象に、危険度認知やリスクマネジメントに関する意識について明らかにした。また、ICTを活用した保育現場において必要な危険予測・回避能力育成のための危険予知トレーニング(KYT)教材を開発・実践し、その有効性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育者養成における危険予測・回避能力を育成するためのKYT教材が開発されれば、実習学生は保育施設によって異なる環境においても、予期せぬ危険を察知するコツを身につけることが可能となる。それによって、保育経験のない学生が保育実習に関わることから生じる危険な状況を回避し、乳幼児にも安全な活動を提供できる。また、本研究で保育者養成校の学生を対象に開発したKYT教材は、新任保育者対象の研修会、リカレント教育においても有効に活用できる。現職保育者の視点から実習中の学生のヒヤリハット状況を把握することで、具体的なわかりやすい危険防止のためのガイドラインやKYT教材を作成できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Domestic and overseas literature and materials on dangerous recognition (hazard and risk), safety education, risk prediction and avoidance, KYT, etc. were collected, and problems and future countermeasures on near-miss were examined. A questionnaire survey was conducted with kindergarten teachers and child-care teachers nationwide. From the result, present state of near-miss in kindergarten and nursery school was clarified. In addition, the consciousness on dangerous recognition and risk management was clarified for the students who want to become kindergarten teachers or nursery school teachers. And danger prediction training (KYT) teaching material for risk prediction and avoidance ability training required in the childcare field was developed and practiced using ICT, and the effectiveness was verified.

研究分野：幼児教育・保育学

キーワード：危険予知トレーニング(KYT)教材 ヒヤリハット 危機予測・回避能力育成

1. 研究開始当初の背景

保育施設での事故防止の取り組みは、2016年に厚生労働省から「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」として公表された。しかし、本ガイドラインは保育のプロである保育者には有益であるが、保育経験の乏しい保育者養成校の学生には具体的イメージが持てず、理解が困難である。保育所・幼稚園における事故は乳幼児の生命に直接関係するため、保育実習を行う学生にも理解しやすいガイドラインの作成が必要不可欠である。

危険予知トレーニング(以下、KYTという)とは、実践現場の状況等を描いたKYTシート(イラスト・写真など)を用いて潜んでいる危険を察知する訓練であり、医療現場、交通安全、野外活動などで成果を挙げているが、保育現場や保育者養成校学生への安全教育にはまだ活用されていない。保育者養成における危険予測・回避能力の育成をめざしたKYT教材の開発は、保育実習中に乳幼児と関わる経験の乏しい学生が保育することによる危険性を減らし、実習生が乳幼児と触れ合う安全性を担保するために緊急に取り組まなければならない。KYT教材は印刷物で提供されることが多いが、保育場面映像を用いたKYT教材の開発によって、より具体的・実践的に危険予測・危険回避が検討できると考える。

保育実習の事前指導で学生に危険への注意喚起だけでは不十分であり、具体的実践場面において危険予測、危険回避できる実践的力を育成できる指導が求められている。その際、村越(2006)はハザード(事故発生に結びつく対象や条件)とリスク(事故によって発生する損害の可能性)に区別することの有用性を指摘している。ハザードとリスクを区分することで危険因子を明確にし、それが生み出すリスクを予測し行動することが可能となる(村越,2006など)。しかし、保育現場におけるハザードとリスクを指摘した研究はみられない。また、危険予測、危険回避のつまりき箇所は学生によって異なるため、各人で学べるICTを活用したKYT教材の作成が必要である。

2. 研究の目的

保育者養成校の学生対象に保育現場の危険状況をハザード(事故に結びつく対象)と、それによって発生するリスクに区分して捉え、危険防止のためのガイドラインの作成、及びICTを活用した保育現場において必要な危険予測・回避能力育成のための危険予知トレーニング(KYT)教材を開発・実践し、その有効性を検証することを目的とする。

3. 研究の方法

1) 保育現場での危険場面・危険状況等を収集・分析

危険認知(ハザードとリスク)、安全教育、危険予測・回避、KYTなどに関する国内外の文献、資料を収集し分析する。さらに、保育場面での事故事例、危険場面を文献および事故事例検索データベース等から、保育実習の手引き(ハンドブック)、危険防止ガイドラインをホームページ等から収集し、危険にかかわる留意事項を検討する。

2) 全国の幼稚園教員、保育士を対象とした保育現場における危険状況に関する質問紙調査

全国の幼稚園教員、保育士を対象と質問紙調査を実施する。調査内容は中学校家庭科における中学生と幼児とのふれあい体験時の危険状況についてである。

3) 保育者養成校の学生を対象とした保育現場における危険状況に関する質問紙調査

保育者養成校の学生を対象に、危険度認知やリスクマネジメントに関する意識について尋ねた。

4) ICTを活用した保育現場でのKYT教材を作成

これまでの研究成果をふまえた上で、ICTを活用したKYT教材サイトにリンクさせることで、危険予測・回避に関する理解が深まるように作成する。

4. 研究成果

1) 子どもの安全に関する日本の保育施設の現状を俯瞰し、リスクマネジメントに関する概念の定義および概念範囲の明確化を試み、特に心理学の視点から将来的研究課題の可能性に関する理論的考察を行った。その結果、熟達システムを前提とした対策だけでなく、異なる対策の必要性が示唆された。また、安全に関する個々の保育者の認知過程のうち、特にリスクを取り除くために必要な対処行動を個人レベル、集団レベルで生起させる(もしくは抑制する)プロセスの解明については今後の重要課題であることが示された。

2) 中学校家庭科授業におけるふれあい体験学習に焦点をあて、全国の保育者を対象に、中学生と幼児とのふれあい体験時における中学生の行動への危険意識、中学校でのふれ合い体験前の事前指導などについて明らかにすることを目的に、郵送法によって調査を実施した。その結果、保育者は中学校での事前指導において、中学生が挨拶やマナーなどの基本的な態度を身に付け

ることを求めていた。また、特に3歳未満クラスや異年齢混合クラスにおいて、ふれあい体験時の中学生の行動に含まれるハザードを警戒していることが示され、担当クラスの子どもたちの発達段階に即して、保育者の危険意識の程度に差が生じることが認められた。

3) -1 感情価を伴うエピソード想起および、深刻事故への楽観的態度である楽観バイアスが、危険察知に影響する可能性について探索的に検討した。その結果、簡単なエピソード想起という、弱い操作でも危険度の認知に差が認められた。また、自分には深刻な事故が起こらないと直感的に感じている人は、プライムされやすいことが示された。これらのことから、特に初任者は定期的にヒヤリハットを報告しあったり、もしものケースを話し合ったりしながら、危険意識を緩めない手立てが必要であることが示唆された。

3) -2 保育者養成校の学生に実施した調査のデータを分析し、教材開発に関する知見を得るとともに、その成果に関して研究発表を行った。具体的には、心的状態を「安全に関する統制の所在(Safety Locus of Control)」と掛札が指摘する3つの要因の関連性について検討した結果、「気をつけていれば事故は防ぐことができる」という信念は、「事故が起こったのは、その当事者に問題がある」という帰属傾向を促し、他園の事例から省察的に学ぶ意識を阻害する可能性や、「見守っていれば大丈夫」という過信を引き起こす可能性が示唆された。一方で、安全に対する外的な帰属傾向は、「深刻な事故が起こるかどうかは偶然によるところが大きい」という信念と関連する可能性が示された。

3) -3 保育者養成校の学生にリスクマネジメントに関する意識調査を行い、学生が保育現場における子どもの安全確保のため、どのような意識を有しているのか検討した。その際、保育学生を対象とするICTを活用したアンケートを実施した。そして、学生のリスクマネジメントに関する自由記述について、学生が想起した用語の出現頻度及び用語同士のつながりの関連性を検討した。その結果、学生にとって想起しやすいリスクマネジメントには偏りがみられたことが明らかとなった。そのため、今日求められている保育現場の安全性について、子どもと触れ合った経験の少ない学生でもイメージができるような教材開発の必要性が示唆された。

(4) 質問紙調査結果や保育者へのインタビュー調査の結果をもとに、危険予知トレーニング(KYT)教材を開発した。開発した危険予知トレーニング(KYT)教材は、VR動画を用いて保育場面の危険状況を切り取ったICT教材である。この教材を保育者志望の学生と現職の保育者の両方に使用してもらったところ、保育者志望の学生には言語で説明困難な危険状況の理解を促すなどの効果が見いだされ、現職保育者は本教材を使用することで自身の保育を見直す契機となっていた。

<引用文献>

村越真(2006)野外活動場面における児童の危険認知の特徴. 体育学研究, 51, 275-285

5. 主な発表論文等

[雑誌論文]

伊藤優, 鎌田雅史(2020)「保育施設における中学生受け入れ時の安全に関する意識の検討」『小児保健研究』, 第79巻4号, pp.332-341

伊藤優, 高橋均, 鎌田雅史(2020)「幼稚園教育実習における実習生の幼児に対するかわり 困難さを感じる場面の特徴」『保育者養成教育研究』4号, pp.1-9

鎌田雅史, 伊藤優(2020)「保育施設におけるリスクマネジメントに関する心理学的研究の展望」『就実論叢』第49号 pp.73-84

伊藤優, 高橋均(2019)「幼稚園教育実習における子どもへの声かけに関する事前指導の検討 学生へのアサーション・トレーニングの効果に着目して」『保育者養成教育研究』3号, pp.1-9

伊藤優, 鎌田雅史(2019)「保育者養成校学生を対象としたリスクマネジメントに関する意識調査」『就実教育実践研究』第12巻, pp.67-76

[学会発表]

伊藤優, 鎌田雅史(2021)「中学校家庭科ふれあい体験時の危険防止に関わる事前指導の検討」日本教育心理学会第63回総会. WEB会場『日本教育心理学会第63回総会発表論文集』

伊藤優, 鎌田雅史(2020)「安全に対する過信と認知バイアスとの関連性」日本教育心理学会第62回総会. アクトシティ浜松『日本教育心理学会第62回総会発表論文集』p.221

伊藤優(2020)「幼児とのふれあい体験における園と中学校との連携に関する検討-事前打ち合わせに焦点を当てて-」日本保育学会第73回大会. 奈良教育大学, 『日本保育学会第73回大会発表論文集』

伊藤優, 鎌田雅史(2019)「ポジティブ感情と危険認知との関係 保育場面における楽観バイアス

に着目して」日本教育心理学会第61回総会．日本大学『日本教育心理学会第61回総会発表論文集』p.432

伊藤優,鎌田雅史(2019)「中学生ふれあい体験時の保育者の意識調査 事前指導及び危険意識に焦点を当てて」第66回日本小児保健協会学術集会．タワーホール舟堀,『第66回日本小児保健協会学術集会講演集』p.231

伊藤優(2019)「中学生と幼児のふれあい体験に対する保育者の危険意識」日本保育学会第72回大会．大妻女子大学,『日本保育学会第72回大会発表論文集』

伊藤優(2019)「保育者を目指す学生のリスクマネジメントに関する意識調査」日本保育者養成教育学会第3回研究大会．東北福祉大学,『日本保育者養成教育学会第3回研究大会プログラム・抄録集』p.103

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 齋藤紀子, 河崎智恵, 伊藤優, 伊藤圭子	4. 巻 第44巻1号
2. 論文標題 特別支援学校高等部「家庭」における中高接続に関する検討 教師の困難状況からみた課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 伊藤優	4. 巻 第72巻6号
2. 論文標題 育児に困難を有する保護者への支援に関する検討 「食事の連絡帳」の記述から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本家政学会誌	6. 最初と最後の頁 333-347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 淀川裕美, 酒井治子, 林薫, 志賀大輔, 渡邊高幸, 會退友美, 池谷真梨子, 伊藤優	4. 巻 11
2. 論文標題 乳児期の食事場面における子どもの心地よさを支えるための要因に関する研究 子どもと保育者の関係性構築のプロセスに着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 保育科学研究	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤優, 鎌田雅史	4. 巻 第79巻4号
2. 論文標題 保育施設における中学生受け入れ時の安全に関する意識の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 332-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤優	4. 巻 第71巻7号
2. 論文標題 幼児の食行動別にみた保育者の食事指導意識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本家政学会誌	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鎌田雅史・伊藤優	4. 巻 49
2. 論文標題 保育施設におけるリスクマネジメントに関する心理学的研究の展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 73-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤優・高橋均・鎌田雅史	4. 巻 4
2. 論文標題 幼稚園教育実習における実習生の幼児に対するかかわり 困難さを感じる場面の特徵	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育者養成教育研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤優・鎌田雅史	4. 巻 12
2. 論文標題 保育者養成校学生を対象としたリスクマネジメントに関する意識調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 就実教育実践研究	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤優	4. 巻 48
2. 論文標題 幼稚園の食事場面における保育者の食事援助観と座席位置 4歳児との共食場面に焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 131-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 伊藤優, 藤井友香
2. 発表標題 自然材を用いた遊びのプロセスに関する研究 遊びの転換点に着目して
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤優, 鎌田雅史
2. 発表標題 食に関する不安が子育てに向き合う気持ちに及ぼす影響: 多様なサポートによる緩衝効果
3. 学会等名 第68回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤優, 鎌田雅史
2. 発表標題 中学校家庭科ふれあい体験時の危険防止に関わる事前指導の検討
3. 学会等名 日本教育心理学会第63回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鎌野育代, 伊藤優
2. 発表標題 幼児期における消費者教育の教材開発
3. 学会等名 第67回日本家政学会中国・四国支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤優
2. 発表標題 保育者の食事援助観別にみた食事場面における子どもへの働きかけ
3. 学会等名 第67回日本家政学会中国・四国支部研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤優, 境愛一郎
2. 発表標題 保育者志望学生を対象としたYouTube上の保育関連動画の利用状況に関する調査
3. 学会等名 第6回保育者養成教育学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤優
2. 発表標題 幼児とのふれあい体験における園と中学校との連携に関する検討-事前打ち合わせに焦点を当てて-
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤優, 鎌田雅史
2. 発表標題 安全に対する過信と認知バイアスとの関連性
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤優, 鎌田雅史
2. 発表標題 幼児の食事行動と保護者の食事に関する悩みおよび子育て観との関係
3. 学会等名 第67回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yu Ito, Masafumi Kamada
2. 発表標題 Survey on the safety consciousness of preschool teachers when children come into contact with teenagers
3. 学会等名 Organisation Mondiale pour l' Education Prescolaire Asia Pacific Region Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤優
2. 発表標題 中学生と幼児のふれあい体験に対する保育者の危険意識
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤優・鎌田雅史
2. 発表標題 中学生ふれあい体験時の保育者の意識調査 事前指導及び危険意識に焦点を当てて
3. 学会等名 第66回日本小児保健協会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤優・鎌田雅史
2. 発表標題 ポジティブ感情と危険認知との関係 保育場面における楽観バイアスに着目してー
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤優・高橋均
2. 発表標題 子育て支援活動における保育者養成校学生の変容 アサーションの活用に着目して
3. 学会等名 日本保育者養成教育学会第4回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yu Ito
2. 発表標題 Where do Japanese Kindergarten Teachers Sit during Lunch Time?
3. 学会等名 Hawaii International Conference on Education 15th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤優
2. 発表標題 保育者を目指す学生のリスクマネジメントに関する意識調査
3. 学会等名 日本保育者養成教育学会第3回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤 優・高橋均
2. 発表標題 幼稚園教育実習における実習生の幼児に対する声かけの特徴
3. 学会等名 日本リメディアル教育学会第14回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤優
2. 発表標題 幼稚園の食事場面における保育者の座る位置からみた食事指導観
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤 優, 小笠原千明, 藤井志保
2. 発表標題 幼児とのふれあい体験学習における中学生の対児感情の変容過程 中学生の「心の声」に焦点を当てて
3. 学会等名 日本家政学会第69回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 伊藤優, 青木一永, 浅川淳司, 石田賀奈子, 石田慎二他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 227
3. 書名 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	

1. 著者名 伊藤優, 河崎智恵, 河村美穂他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 587
3. 書名 新・教職課程演習 第15巻 初等生活科教育、初等音楽科教育、初等図画工作科教育、初等家庭科教育、初等体育科教育、初等総合的な学習の時間	

1. 著者名 公益財団法人児童育成協会、清水 益治、森 俊之編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 183
3. 書名 子どもの理解と援助	

1. 著者名 多々納道子・伊藤圭子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 194
3. 書名 実践的指導力をつける家庭科教育法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------